

Rep
ort

身近な自然の観察・記録活動 石神井川緑道版

2021.2.11

一人ひとりの自主活動 だれでも参加できます

活動：月2回(第二木曜日・第四金曜日)10:00より(雨天中止)
コース：帝京大学付属病院北詰・御成橋たもと→金沢橋
問合せ・連絡先：090-8646-9757 木村松夫 com-matchan@hotmail

石神井川のニリンソウ



石神井川緑道
のあるポイント
(左の写真)。

プランターか
らこぼれたニリ
ンソウの根茎が
露地で生き残っ
ていて、毎年花を
開かせます。(下
の写真)

今年も2/11、伸
ばし始めの葉茎
を確認しました。

ニリンソウは「板橋区の花」なので、毎年ニリンソウシーズンになると苗の配布が行われてきました。おそらく、そこで手に入れたものだと思いますが、プランターで育てられていたのでしょうか。でも、ニリンソウは春を過ぎると葉が枯れて地上から姿を消してしまうので、プランターの持ち主さんは「ニリンソウは枯れちゃった」と思って、プランターごと石神井川緑道のフェンス下に放っておいたのでしょう。



ニリンソウが生きる環境とは

ところで、ニリンソウが生きる環境とは、春の開花時期には光がたくさん当たる必要があるけれど、夏から秋にかけては地下で根茎という形で過ごしているので、地面が乾燥しないように直射日光が差し込まない環境、しかも湿り気が多い土壌が好まれます。都立赤塚公園大門地区には都内最大のニリンソウ自生地がありますが、そこは武蔵野台地の北向き崖線の落葉樹林の林縁(林のふち)で、ところどころに「絞り水」というわずかな湧水があって、まさにニリンソウが生きやすい環境なわけです。

それに対して、一見してパサパサ環境のこの石神井川緑道で、どうして・・・？

このニリンソウはプランターの中にいたら確実に枯れていたでしょう。しかし、川べりの露地は雨水が通りやすく、晩春から秋にかけては名物「石神井川の桜並木」が地表に陰をつくっています。プランターからこぼれたニリンソウは、まさにここに「ニリンソウ環境」を見つけたのです。

渡り鳥……

寒暖差の高い冬です。寒い朝でも氷がはる日は少なくなっていて、翌日には春の陽気が続くので、平均気温は毎年少しずつ上がってきているはずですが。

川べりでひなたぼっこをしている渡り鳥群。今年は、例年よりも少ないような気がしました。北の方が暖かくなれば、もう南方に渡ってくる必要がなくなるのかもしれませんが。

仲良くひなたぼっこ



<カモのひなたぼっこ>
羽色が黒で、胸が白いのは**マガモ**の雄。
羽色が地味なのは雌。
画面右下で固まっている小型の一群は**コガモ**。

観察の帰り道 昼近く 続々と今年初開花



左の上=オオイヌノフグリ その下=同じオオバコ科の**フラサバソウ** (全身毛だらけ)
上=**アメリカフウロ** (ピンク色)と**キュウリグサ** (白)の咲き揃い
右下=**ホトケノザ**



2/11 は朝から雲ひとつない空。

風は冷たかったものの、太陽が上がった昼近くの日向はぽかぽか。気温も上がってきて、観察を終えた帰り道では次々と開花が観察されました。いずれもまだ縮み気味ですが、足元ではもう春になっています。

※2/14 は赤塚公園大門地区のヤエムグラ抜き取り作業。2/15 は赤塚公園の観察・記録活動。

石神井川観察は 2/26 です。3～4月のニリンソウ月間は忙しくなります。問合せは木村まで。